

2023 年 5 月 18 日

熊本県知事 蒲島 郁夫 様

瀬戸石ダムを撤去する会

共同代表 出水晃、上村雄一、本田進

連絡先 869-0222 熊本県玉名市岱明町野口 927

TEL:080-3999-9928 FAX:0968-72-5604

E-MAIL: tsuchi_tk@yahoo.co.jp

瀬戸石ダム問題：電源開発の真摯な対応を求める要請書

2020年の球磨川豪雨災害以降、私たちは瀬戸石ダムが球磨川中流部の洪水被害を拡大させた原因だとして、ダムの撤去を求めて関係機関に様々な働きかけをしてきました。

ダムを管理運営する電源開発株式会社（以下電源開発）にも働きかけを行ってききましたが、電源開発は私たちの質問に対して回答するまでに時間がかかったり、しかもまともな回答を行わなかったりします。また、住民の声を聞くように求めています、全く聞く耳を持ちません。

2014年2月の瀬戸石ダムの水利権更新時、貴職が国交省に提出した意見に「今後、地域からの要望・意見に対しては、真摯に耳を傾け、十分な配慮・対応をしていただきたい」というものがありましたが、今の電源開発の姿勢はこの意見をないがしろにするものと言わざるを得ません。

そこで、私たちはこの知事意見に基づいて、電源開発が真摯な対応をするように貴職に求めます。以下は、添付している資料です。

記

1. 2023年に入ってから電源開発とのやり取り（別紙0）
2. 2014年2月の瀬戸石ダムの水利権更新時、貴職が国交省に提出した意見（別紙1）
3. 2に関連する各種文書（別紙2～20）

以上

2023年に入ってから電源開発とのやり取り

No	内容	提出日または 実施日	質問書の回 答日	結果
1	電源開発に 質問書提出	2月8日	3月28日	① 回答までに48日経過 ② 警報局の移設に関して具 体的な回答無し ③ 当会のダム撤去時の水位 計算についての具体的な 反論無し
2	福岡事務所 を訪問	同上		① 「警察を呼ぶ」など暴言 ② 住民の声を聞くことは拒 否
3	電源開発に 質問書提出	2月21日	3月28日	① 回答までに35日経過 ② 「警察を呼ぶ」発言の法 的根拠なし ③ HP など一方的な情報発 信しかしない
4	福岡事務所 を訪問	4月12日		住民の声を聞くことは再度 拒否 * 欄外動画参照
5	電源開発に 質問書提出	3月31日	5月16日	① 回答までに46日経過 ② 警報が2時間以上遅れた 理由について無回答

* 4月12日の福岡事務所を訪問した時の様子（動画）

<https://bit.ly/3MmtJBK> または

<https://kawabegawa.jp/setoishi/20230412jpkosho.mp4>



河第472号
平成26年2月12日

国土交通省
九州地方整備局長 岩崎 泰彦 様

熊本県知事 蒲島 郁夫



球磨川水系球磨川における水利使用(更新)に関する河川法第23条及び第24条の許可(瀬戸石発電所)について(回答)
平成26年1月17日付け国九整25水球第12号で意見照会がありましたこのことについて、下記のとおり回答します。

記

当該水利使用の更新を許可されることについては、支障ありません。
なお、当該水利使用につきましては、以下の4点の附帯意見について、できる限りの対応を講じていただきたい。

- 1 地域の生活環境、自然環境などの保全について十分な対策を行うとともに、対策後も環境調査などの措置を講じ、必要があれば追加の対策を講じていただきたい。
- 2 球磨川における水産振興に十分な対策を講じていただくとともに、流域の農業振興についても配慮をしていただきたい。
- 3 瀬戸石ダムは、ダム定期検査で、ダム湖の堆砂について「重要な問題があり、早急な対応が必要」との判定を受けています。このため、今後、河川の治水面での安全性を損なわないように、環境に十分配慮し、迅速かつ的確な対応を行っていただきたい。
- 4 今後、地域からの要望・意見に対しては、真摯に耳を傾け、十分な配慮・対応をしていただきたい。

2023年2月8日

電源開発株式会社 代表取締役社長 渡部 肇史 様

瀬戸石ダムを撤去する会

共同代表 出水晃、上村雄一、本田進

連絡先 869-0222 熊本県玉名市岱明町野口 927

TEL:080-3999-9928 FAX:0968-72-5604

E-MAIL: tsuchi_tk@yahoo.co.jp

貴社への抗議と豪雨災害時の瀬戸石ダムの問題に関する質問書

貴社は、当会が本日、貴社西日本支店福岡事務所前の公道を利用して街頭宣伝行動を行うことに関して、そのことを理由に貴社との交渉を拒否しました。公道を利用した街頭活動は表現の自由であり、それを理由にして交渉を拒否することは不当であり、大企業の驕りです。到底、受け入れることは出来ません。このような傲慢な姿勢を取る貴社に対して強く抗議します。

2020年7月4日の豪雨災害（以下豪雨災害）の時のダムの問題について、新たに下記の通り、質問いたします。文書にて、2月22日までにご回答いただきますようお願いいたします。

記

1. 当会は2021年5月24日付で貴社に対し「警報設備復旧状況に関する抗議文」を送り、その中でダム下流の警報局を従前の位置で復旧しても豪雨災害時と同じ水位になったら、また水没し、機能を発揮できなくなる恐れを指摘し、もっと高くかさ上げするか、高台に移転すべきと求めた。この件につき、昨年、国土交通省経由で貴社に問い合わせたところ「下流警報設備については、昨年（注：2021年のこと）5月までに原形復旧を優先して行いました。その際、可能な範囲で装置の取付位置を高くする対策を行っています。なお、令和2年7月豪雨と同規模の出水が発生した場合には、一部の警報設備は浸水するおそれがあるため、更なる改善としてより高い場所に移設するための適地を選定中で、可能となった箇所から順次移設を行います」（2022年9月12日、国交省 水管理・国土保全局 河川環境課 流水管理室 企画専門官 田中里佳氏のメール）との回答を得た。装置の取付位置をどれだけ高くしたのか、また移設に関して移設後の位置・標高、進捗状況を警報局ごとに明らかにされたい。
2. 当会の計算では、豪雨災害時の流量で、ダムを撤去し、ダムの湖底にたまった土砂を撤去したとすると、ダム上流の水位が最大約3.7メートル下がるという結果が出た。貴社は2021年2月、「ダムが水をせき止めて水位が大幅に上昇した事実は認められなかった」としているが、当会の計算結果で言えば、ダムがあったから最高で約3.7メートル水位が上がったことになる。このことを貴社はどう考えるか（詳細は添付資料参照）。

*本質問に関する問い合わせ先：

瀬戸石ダムを撤去する会 南 由穂美 090-4773-9159

3. 豪雨災害時に、上流からの土砂の流入量は、平常時に比べてどれくらい増えたのか。

以上

2022年9月2日

国土交通大臣 斉藤 鉄夫様
(九州地方整備局八代工事事務所経由)

瀬戸石ダムを撤去する会

共同代表 出水 晃 上村 雄一 本田 進
連絡先 玉名市岱明町野口 927
080-3999-9928

瀬戸石ダムを撤去した場合の治水効果について(申し入れ)

気候不順のおりから、貴職におかれまして、益々、ご清祥のこととお喜び申し上げます。また日頃より、球磨川の河川管理にご尽力いただき、感謝申し上げます。

このことにつきまして、当会では、瀬戸石ダムを撤去すれば河川水位はどうなるのか、シミュレーションをしてほしいと貴職に対し要望してまいりましたが、貴職はこれを拒否してきました。

そこで、当会では、市販の汎用ソフトを購入し、同ダムを撤去した場合の水位の変化を計算いたしました。(別添説明書参照)

その結果、同ダムの上流区間10kmにおいて、最大で3.7mの水位を引き下げることができました。このことは、瀬戸石ダムがなければ、先の洪水で瀬戸石駅が流失することも、肥薩線の線路がねじ曲がることも、嵩上げを終えた家屋が浸水することもなかった可能性があることを示しています。

貴職は、すでに開かれた球磨川水害の検証委員会でも、治水対策協議会でも、瀬戸石ダムが、先の洪水でどのような影響があったかについて、一切言及することはありませんでした。そればかりか、それらの報告書にも、河川整備計画書にさえ、瀬戸石ダムの単語を見つけることすらできませんでした。

また貴職は同ダムに対し、球磨川の河川占用許可と水利権の許可をしています。これらの許可にあたっては、治水上の支障がないことが大前提であることは言うまでもありません。

貴職は、当会のシミュレーションを検討され、ご自身でも検証して、河川占用許可及び水利権の許可が妥当であるか否かを吟味されるよう申し入れます。

なお、貴職が上記の検討を行われないときは、その理由を明らかにし、当会にご連絡ください。また、検討を行われたときは、その結果をご報告ください。

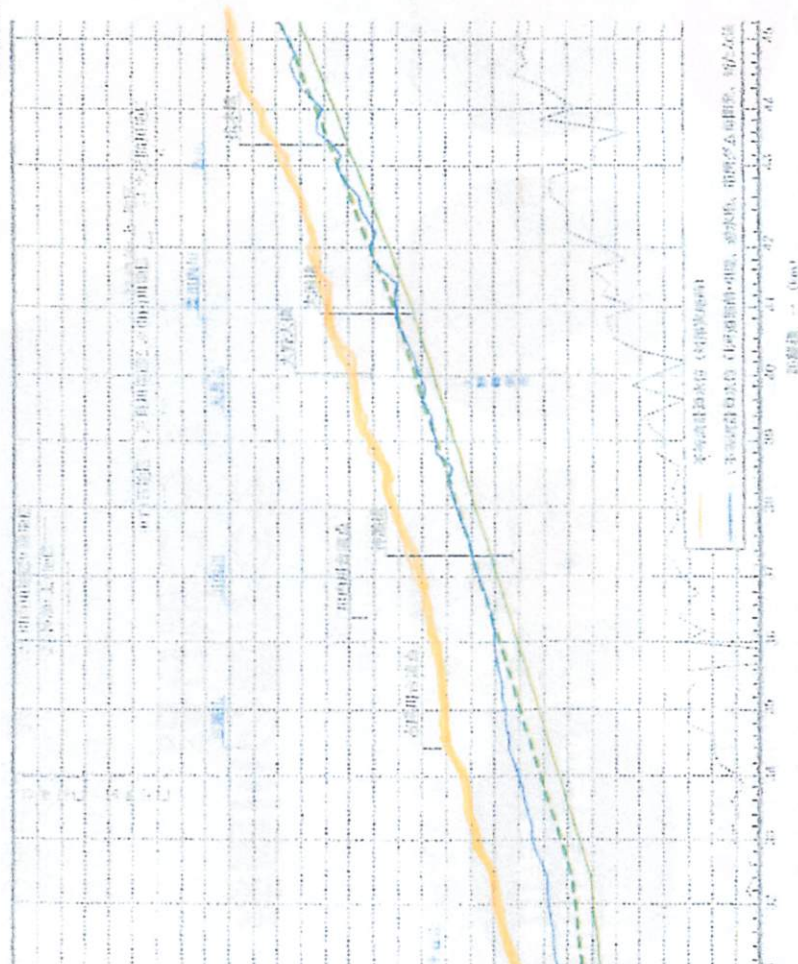
瀬戸石ダムを撤去することは、この区間の有効な治水対策であると考えます。

以上、よろしくお取り計らいくださいますようお願い申し上げます。

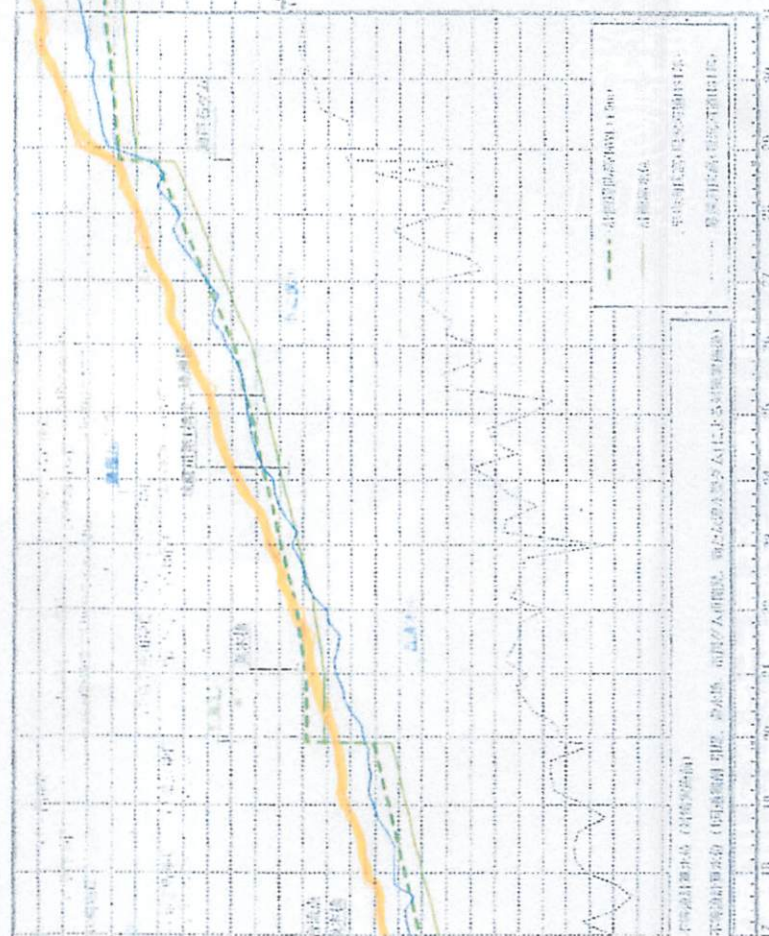
での対策(案)を実施した場合における 減効果の試算について

防の高さ以下となるが、一部超える区間が存在する。

第 2 回 球磨川流域治水協議会 R.2.12.18 p88 p89



河川対策実施前・後の水位を推定する際には、流出解折でデルタにより洪水が発生しなかった場合の「河川通過流量」
水質測定の水位は一定の条件下にある「想定値」であるため、今後洪水の可能性がある。
下等流は河川は200m毎に断面設定しており、有効断面の増分が水位低減効果に表れることとなる。また、計測
「水位」よりも流速が遅く水位が低い「電」が（計算上、）河川対策実施前において一般発生することにより、



瀬戸石ダムを撤去した場合の水位計算について

a これまでの経緯

瀬戸石ダムは上下流で大きな被害を出しているのに、検証委員会及び治水対策協議会などにおいて、瀬戸石ダムに関する記述が見られない。

第2回球磨川流域治水協議会(令和2年12月18日)の水位計算報告が出されあらゆる治水対策を実施した後でも、ダム上流水位は計画堤防高を超えるという。

瀬戸石ダムは、治水対策として撤去するしかないのではないかと抗議する。

国は、「電源開発株式会社は発電の意思を持っており、国が廃業を前提とした計算をすることはできない」として、シミュレーションを断った。

国は球磨川の河川管理者として、電源開発株式会社に、河川占用の許可及び水利権を与えており、それらの許可をするには、治水上支障がないことが大前提である。県も河川占用及び水利権に関し意見を述べているが、治水上の支障がないことが前提であることは同様である。

b 不等流計算でシミュレーションを実施

使用ソフト フォーラム8社 等流・不等流の計算・3DCAD Ver. 9

計算条件 平成30年測量 国土交通省測量図面(平面図、横断図)使用

瀬戸石ダム下流 27.0km 地点から、上流 38.8km 地点までの
11.8km について不等流計算を行った。

洪水量 10,500m³/秒(横石計画流量を瀬戸石ダム地点に換算)

横石地点洪水流量 12,000m³/秒 流域面積 1,856km²

(第2回球磨川豪雨検証委員会説明資料 100p 令和274)

瀬戸石ダム地点流域面積 1,629km²

$12,000 \times 1,629 \div 1,856 = 10,500\text{m}^3/\text{秒}$

粗度係数 0.035

既設ダム天端(クレスト)標高 36m (別添ダム断面図参照)

撤去後ダム地点河床標高 27m

ダム撤去後に、上流部の堆積土砂撤去を行うこととする。

その場合の河床勾配は撤去後のダム河床と上流 38km の河床を
結ぶものとした。

掘削土量 1,893 千 m³ (別添土積計算書参照)

工事費 7,572 百万円(4千円/m³)

c 計算結果

ダム上流区間で、3.0m前後の水位が下降した。また34.0km地点では、水位が3.7m下がった。

瀬戸石ダムの撤去は、この区間の治水対策として有効であると考ええる。

本計算は、既設ダム地点の断面形状をゲート門柱がない形状で計算している。それは使用ソフトが、そのような条件でないと計算できないからであるが、それによって、ダムによる堰上げが少ない計算結果となっている。

実際には、門柱があるので、水位はもっと上昇するから、撤去による水位下降値は、この計算値より大きくなると考えられる。

このことをシミュレーションするには水理模型実験が有効であると考えられる。

d 計算結果が示していること

瀬戸石ダムを撤去すれば、洪水時の河川水位を大きく下げることができる。

逆に言い換えれば、同ダムが治水上の障害となっているということである。

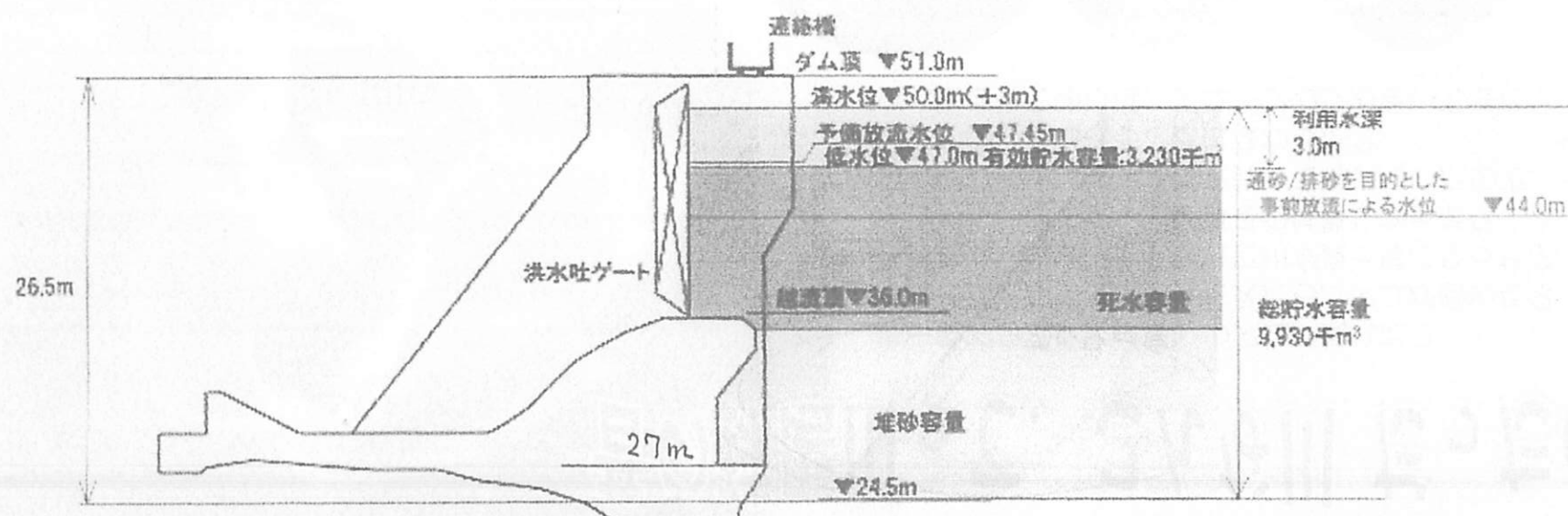
治水上の支障がないことが、河川占用及び水利権許可の前提であるのだから国の電源開発株式会社に対する河川占用及び水利権の許可は妥当でないと判断される。

資料1

瀬戸石ダム・発電所の諸元

凡 例

- :有効貯水容量
- :死水容量
- :堆砂容量



瀬戸石ダム 断面イメージ

1章 ファイル情報

ファイル名 : 瀬戸石現状計算 2.F9Y

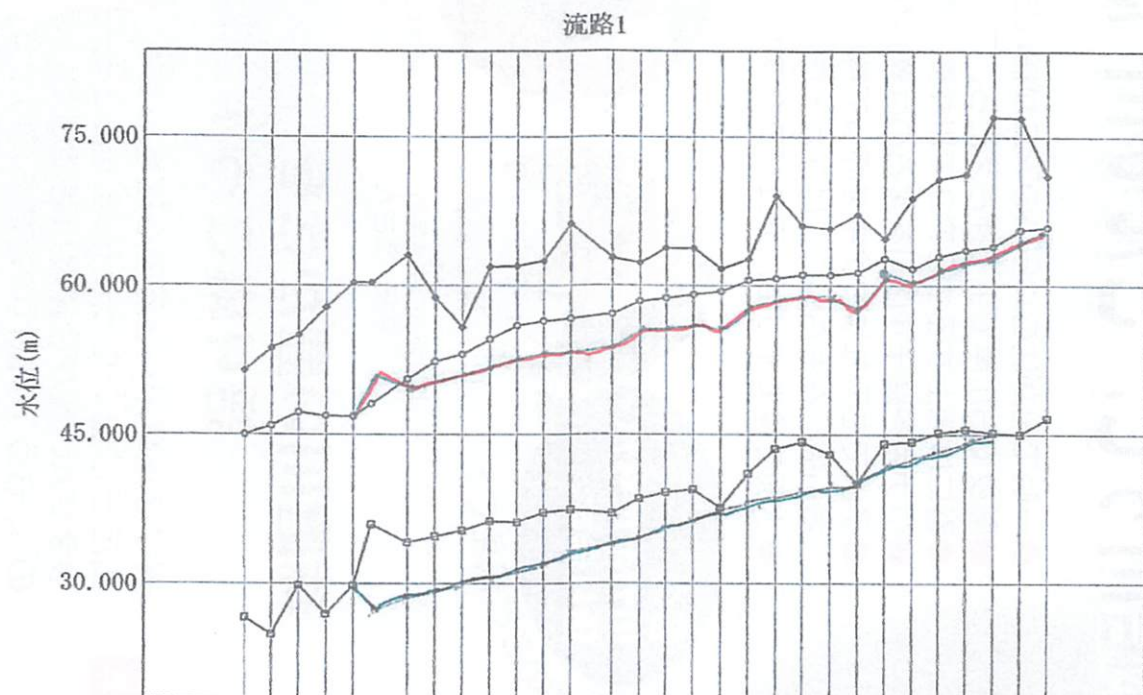
コメント :

2章 不等流の計算:流路1

2.1 計算結果

2.1.1 計算条件1-ケース1

【水位・河床高グラフ】



測点位置 (m)	27000.000	27400.000	27800.000	28200.000	28600.000	29400.000	29800.000	30200.000	30600.000	31000.000	31400.000	31800.000	32400.000	32800.000	33200.000	33600.000	34000.000	34400.000	34800.000	35200.000	35600.000	36000.000	36400.000	36800.000	37200.000	37600.000	38000.000	38400.000	38800.000
-------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

◇:不等流水位 □:河床高 ×:地表高

【結果リスト】

測点名	位置 (m)	不等流計算		限界水位 (m)	等流水位(m)	
		種類	水位(m)		下流側	上流側
断面1	27000.000	開始(指定)	45.000	40.492	---	---
断面2	27400.000	常流水位	45.902	42.215	---	39.971
断面3	27800.000	常流水位	47.192	41.283	39.263	---
断面4	28200.000	常流水位	46.845	42.330	---	41.207
断面5	28600.000	常流水位	46.798	44.972	43.921	40.314
断面7	28861.000	常流水位	48.036	46.886	42.938	---
断面9	29400.000	常流水位	50.518	48.057	---	54.508
断面10	29800.000	常流水位	52.332	48.165	54.050	54.050
断面11	30200.000	常流水位	53.065	49.586	56.035	54.170
断面12	30600.000	常流水位	54.556	50.406	54.067	---

測 点		水 位			差	摘 要
no	距離	現状	撤去後	改良後		
1	27000	45.000	45.000	45.000	0.000	
2	27400	45.902	45.902	45.902	0.000	
3	27800	47.192	47.192	47.192	0.000	
4	28200	46.845	46.845	46.845	0.000	
5	28600	46.798	46.798	46.798	0.000	
ダム (7)	28861	48.036	50.326	50.326	2.29	
9	29400	50.518	48.085	49.652	-0.866	
10	29800	52.332	51.989	50.306	-2.026	
11	30200	53.065	52.797	51.134	-1.931	
12	30600	54.556	54.419	51.778	-2.778	
13	31000	55.947	55.858	52.812	-3.135	
14	31400	56.412	56.332	53.457	-2.955	
15	31800	56.685	56.610	53.368	-3.317	
16	32400	57.110	57.044	53.930	-3.180	
17	32800	58.384	58.337	55.569	-2.815	
18	332000	58.740	58.697	55.740	-3.000	
19	33600	59.077	59.039	56.112	-2.965	
20	<u>34000</u>	59.400	59.365	55.682	<u>-3.718</u>	
21	34400	60.513	60.486	58.089	-2.424	
22	34800	60.700	60.675	58.532	-2.168	
23	35200	61.088	61.065	58.824	-2.264	
24	35600	61.048	61.026	58.590	-2.458	
25	36000	61.321	61.299	57.653	-3.668	
26	36400	62.736	62.723	61.713	-1.023	
27	36800	61.728	61.713	60.542	-1.186	
28	37200	62.958	62.947	61.905	-1.053	
29	37600	63.633	63.623	62.394	-1.239	
30	38000	64.008	64.001	62.804	-1.204	
31	38400	65.673	65.668	64.898	-0.775	
32	38800	65.942	65.937	65.233	-0.709	

土 積 計 算 書

測点名	距離程	区間距離	面 積	平 均	土 積	摘 要
7	28861		0.0			ダム地点
9	29400	539	302.4	151.2	81,496.8	
10	29800	400	287.4	294.9	117,960.0	
11	30200	400	268.1	277.75	111,100.0	
12	30600	400	332.5	300.3	120,120.0	
13	31000	400	158.4	245.45	98,180.0	
14	31400	400	300.5	229.45	91,780.0	
15	31800	400	235.0	267.75	107,100.0	
16	32400	600	145.8	190.4	114,240.0	
17	32800	400	236.3	191.05	76,420.0	
18	33200	400	203.3	219.8	87,920.0	
19	33600	400	193.9	198.6	79,440.0	
20	34000	400	25.5	109.7	43,880.0	
21	34400	400	201.0	113.25	45,300.0	
22	34800	400	390.4	295.7	118,280.0	
23	35200	400	629.4	509.9	203,960.0	
24	35600	400	169.6	399.5	159,800.0	
25	36000	400	0.0	84.8	33,920.0	
26	36400	400	277.7	138.85	55,540.0	
27	36800	400	83.1	180.4	72,160.0	
28	37200	400	93.1	88.1	35,240.0	
29	37600	400	49.3	71.2	28,480.0	
30	38000	400	2.7	26	10,400.0	
31	38400	400	0.0	1.35	540.0	
計		9,539			1,893,256.8	

2023年2月21日

電源開発株式会社 代表取締役社長 渡部 肇史 様

瀬戸石ダムを撤去する会

共同代表 出水晃、上村雄一、本田進

連絡先 869-0222 熊本県玉名市岱明町野口 927

TEL:080-3999-9928 FAX:0968-72-5604

E-MAIL: tsuchi_tk@yahoo.co.jp

貴社への再抗議と2月8日の面会に関する質問書

2月8日、当会は貴社に質問書を提出しようとして貴社西日本支店福岡事務所を訪問しましたが、福岡事務所前で当会メンバーと応対した貴社西日本支店福岡事務所の伊藤安晋所長（以下伊藤所長）は「警察を呼ぶ」など、私たちに暴言を浴びせかけました。このことに私たちは強く抗議します。

その時の伊藤所長と当会メンバーのやり取りについて、下記の通り質問いたします。文書にて、3月7日までにご回答いただきますようお願いいたします。

記

1. 瀬戸石ダム上下流の流域住民の話を聞く用意があるか（この質問は2月8日の質問書提出時（以下提出時）に口頭で申し入れていますので、2月8日の質問書の回答期限と同じ2月22日までにご回答ください）。
2. 提出時に、伊藤所長は「警察を呼ぶ」という暴言を吐いたが、私たち達がどのような違法行為を働いたというのか（働くと思ったのか）。
3. 提出時に伊藤所長は報道関係者に対して、2月8日の街宣活動や当日の質問書提出のことは報道しないで欲しいと言ったと報道関係者から聞いているが、貴社は報道の自由をどのように考えているのか。
4. 提出時に伊藤所長は、JR 瀬戸石駅を何度も見に行ったと発言したが、なぜ「何度も」見に行ったのか。

以上

2023 年 3 月 28 日

瀬戸石ダムを撤去する会 御中

電源開発株式会社

貴会からの質問書に対する回答について

当社瀬戸石ダム・発電所は、球磨川流域の皆さまの安全・安心の取り組みを最優先に取り組んでおります。

さて、貴会からの 2023 年 2 月 8 日付け質問書及び 2023 年 2 月 21 日付け質問書につきまして、以下のとおりご回答申し上げます。

なお、これまでもお伝えしておりますとおり、瀬戸石ダム・発電所に関する情報については、当社ホームページ等を通じて提供しており、それ以外のご質問や写真・動画を含む情報提供の申し出については、当事業運営上、提供できかねるものがございますのでご理解願います。

記

1. 2 月 8 日のご質問に対する回答について

下流警報設備については、当社ホームページの 2022 年 4 月 28 日付公表資料に掲載しているとおり、2021 年 5 月までに原形復旧を優先して行いました。その際、可能な範囲で装置の取付位置を高くする対策を行っています。なお、令和 2 年 7 月豪雨と同規模の出水が発生した場合には、一部の警報設備は浸水するおそれがあるため、更なる改善としてより高い場所を確保し、可能となった箇所から順次移設を行うこととしています。

現在、当社にて移設候補地を選定し、関係者の皆さまのご了解を頂きながら、移設の準備を進めているところです。移設状況は、当社ホームページの「お知らせ」等により、流域の皆さまにご連絡致します。

令和 2 年 7 月豪雨時の瀬戸石ダム上下流の水位については、当社ホームページの 2021 年 2 月 19 日付公表資料 (1.(3)豪雨時の流量推定、資料 4、資料 5) に当社の考えを掲載しております。資料 4「瀬戸石ダム上下流の状況」の写真と資料 5「洪水痕跡調査」より、ダムの上下流で水位が大きく変わらないことが確認できることから、当社としては、ダムの影響により水位が大きく上昇した事実は認められなかったと評価しております。

堆積土砂について、当社ホームページの 2021 年 2 月 19 日付公表資料 (資料 6) に堆砂量の経年推移を掲載しておりますが、2019 年秋の堆砂量 855 千 m^3 に対して、令和 2 年 7 月豪雨後の 2020 年秋では 650 千 m^3 となり、約 205 千 m^3 減少しました。調整池の堆砂量は、その年度に発生した出水の規模や堆砂排除などの影響により増減します。

2. 2月21日のご質問に対する回答について

当社の2月8日における貴会の対応時について、長時間にわたり、かつ当初ご連絡いただいていた来訪予定の人数を大きく上回る方々が来訪したことにより、事務所出入口やビル共用部分の使用に影響があり、当社及び他社の業務運営の妨げとなるおそれがあったことから、警察への通報を予告したものです。また、1月16日の貴会からのメールや18日の弊社メールにより、当日の来訪について、貴会からの事前連絡では報道機関は帯同されないと確認しておりましたので、新聞社からの取材要請についてお断りしたものであり、私どもも報道の自由については重要と考えております。

この他、JR 瀬戸石駅を見に行ったことについてのご質問もありましたが、当福岡事務所長は九州地区の担当であり、瀬戸石発電所及び南九州電力所に行った際に見たものです。

瀬戸石ダム・発電所の復旧にあたっては、令和2年7月豪雨後の安全・安心の取り組み等について、当社ホームページでの「お知らせ」の掲載や流域住民の皆さまへのチラシの配布及びケーブル TV の活用により広く情報発信を行うとともに、関係行政等に対しても適宜必要な情報提供を行い、流域の皆さまのご理解、ご協力を頂きながら進めて参りました。今後も、取組みを継続して参ります。

これまでも当社は、貴会からのご質問等に対し都度文書で回答をさせて頂いており、今後も同様に行って参りますのでご理解願います。

当社は、今後も流域の皆さまからのご意見等に真摯に耳を傾けて適切な対応に努め、従来から行ってきた農業用水・工業用水への供給等に協力するとともに、再生可能エネルギーとして電力の安定供給に貢献できるよう取り組んで参ります。

以 上

2023 年 3 月 31 日

電源開発株式会社 代表取締役社長 渡部 肇史 様
瀬戸石ダムを撤去する会
共同代表 出水晃、上村雄一、本田進
連絡先 869-0222 熊本県玉名市岱明町野口 927
TEL:080-3999-9928 FAX:0968-72-5604
E-MAIL: tsuchi_tk@yahoo.co.jp

豪雨災害時の瀬戸石ダムの警報遅れに関する抗議と質問書

2020 年 7 月 4 日の豪雨災害（以下豪雨災害）の時の瀬戸石ダムの問題について、『不知火海・球磨川流域圏学会誌』第 16 巻第 1 号（2022 年 12 月 30 日、不知火海・球磨川流域圏学会編集委員会発行）に堤裕昭氏と上村雄一の共著で「令和 2 年 7 月豪雨発生、球磨川か流域の瀬戸石ダムおよびその周辺域でどのようなことが起きたのかを振り返る」という論文が掲載されました。同論文によりますと豪雨災害時の放流量の下流域への連絡が最大 2 時間以上遅れたということです。下流住民の生命財産を危険にさらす問題であるにもかかわらず、貴社はこの件を公表しませんでした。このことに強く抗議するとともに、同論文の内容につきまして下記質問がありますので、文書にて、4 月 14 日までにご回答いただきますようお願いいたします。

記

- 1.同論文で、洪水吐ゲートの開放と川の流れの関係について「貯水池の水が洪水吐ゲートを通過できる断面積は、ダム堤体が建設される前より約半分に減少してたと推測される。その条件で『流入水がそのまま流下する』ためには、洪水吐ゲートからの放流水はダム建設以前のほぼ倍速で放流される必要がある」と記載されている(同学会誌 35-36 頁)。貴社は 2020 年 7 月 4 日 3 時半以降の洪水吐ゲートからの放流について、「流入水がそのまま流下する自然河川に近い状態」になったとしているが、洪水吐ゲートからの放流水がダム建設以前のほぼ倍速で放流されるという状況のどこが自然河川に近い状態だというのか。
- 2.同論文には、瀬戸石ダムの放流量の下流域への連絡が大幅に遅れたことが指摘してある(40-46 頁)。当会はこの論文の指摘を基に、貴社公表資料*を用いて、豪雨災害時のダム放流量(3500 m³/s 以降)とその量に達した時刻とその下流へのアナウンス時刻・通知時刻を下表のようにまとめた。

放流量(m ³ /s)	到達時刻	アナウンス時刻(開始～終了)	通知時刻	到達時刻とアナウンス開始時刻との時間差
3500	3:15 頃	4:39～5:07	4:53	約 84 分
4000	3:25 頃	5:07～5:34	電話回線不	約 102 分

			通のため通知できず	
4500	3:40 頃	6:03～中断	同上	約 143 分
5000	3:50 頃	アナウンスを省略	同上	
5500	4:15 頃	6:08～6:33	同上	約 113 分
6000	4:30 頃	動作せず	同上	

この表から言えることは、実際の放流量に達した時刻よりも 1 時間以上大幅に遅れてアナウンスや通知が行われているか、または行われていないということである。これではダム下流の住民はアナウンスや通知に基づいて避難すべきかどうか正しい判断が出来ない。実際にはもっと多くの放流が行われているのに、間違ったアナウンスを聞いて安心して避難せず、実際には想定以上の大量の放流に見舞われる危険性もある。ダム下流の住民の生命にかかわる重大な問題である。

- ① なぜこのようにアナウンスや通知が大幅に遅れたり、あるいは行われなかったりしたのか。
- ② 現在、この問題は改善されたのか。
- ③ 改善されていないなら、改善されない理由は何か。
- ④ 貴社がこの下流への通報が大幅に遅れた件を公表しなかった理由は何か。

*貴社の下記 WEB サイト資料

①<https://www.jpowers.co.jp/oshirase/pdf/oshirase200812-2.pdf> の表から放流量（この表では「対象流量」と表記）、アナウンス時刻(開始～終了)、通知時刻を引用（別紙 1）。赤線の枠組みは当会が追加。

②https://www.jpowers.co.jp/oshirase/pdf/oshirase210219_2.pdf の 4 頁のグラフから放流量(m^3/s)と到達時刻を引用（別紙 2）。赤い線は当会が追加。

以上

【今回のアナウンス・通知の実施状況】

ダム放流に関するアナウンスおよび通知の状況（7月3日～4日）は、下表のとおりです。
通知等の一部に遅れが生じるとともに、一部実施ができませんでした。

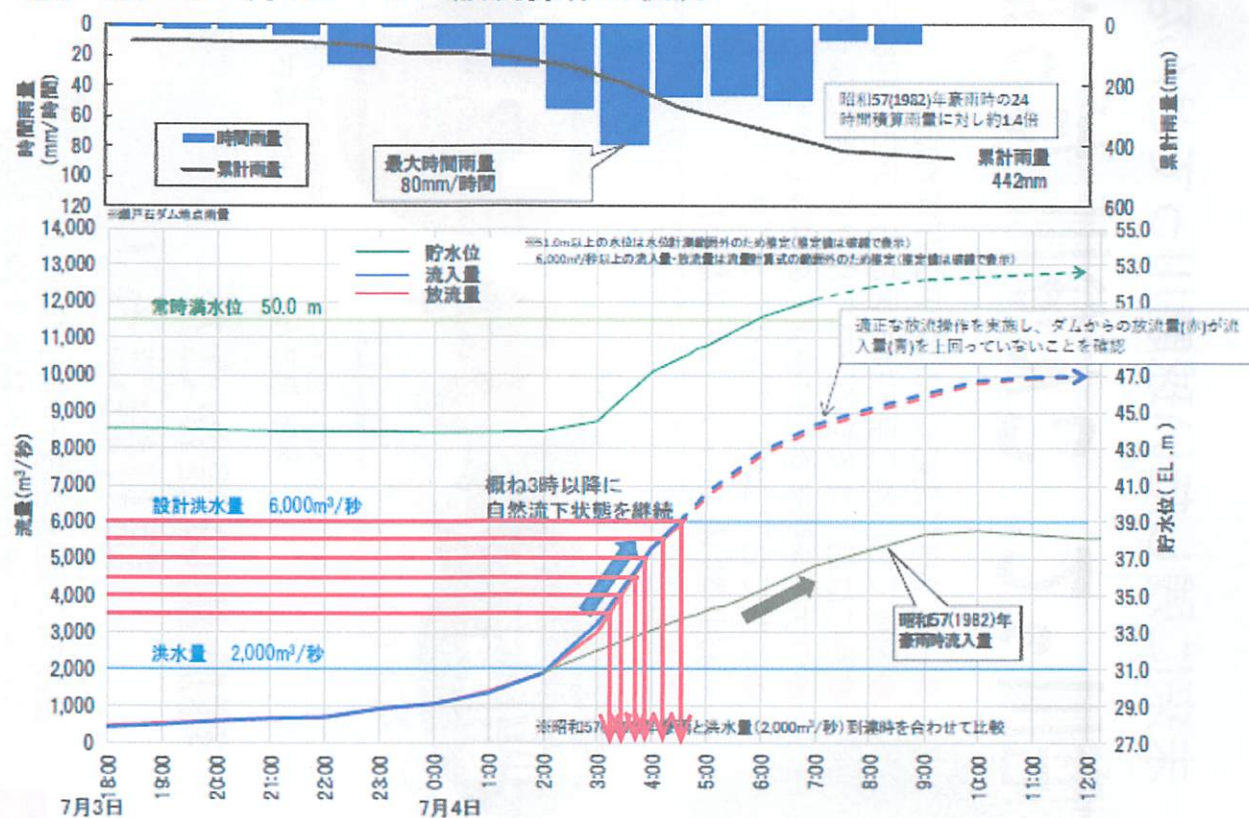
対象流量 ($\text{m}^3/\text{秒}$)	アナウンス時刻 [開始～終了]	通知時刻
500	18:40～19:06	18:52
1,000	23:31～23:57	23:44
1,500	1:12～1:38	1:43
2,000	2:11～2:37	2:26
2,500	2:40～3:08	2:51
3,000	3:15～3:43	4:53 (※1)
3,500	4:39～5:07 (※1)	4:53 (※1)
4,000	5:07～5:34 (※1)	電話回線不通のため通知できず*
4,500	6:03～中断 (※1) (※2)	〃
5,000	— (※2)	〃
5,500	6:08～6:33 (※1)	〃
6,000	— (※3)	〃

※1：実施が大幅に遅れた可能性があります。

※2：急激な流量増加中であり、4,500 $\text{m}^3/\text{秒}$ のアナウンスを実施している途中で中止しました。次の5,000 $\text{m}^3/\text{秒}$ のアナウンスを省略し、5,500 $\text{m}^3/\text{秒}$ のアナウンスに変更しています。

※3：6:30頃アナウンスを試みましたが動作しませんでした。

瀬戸石ダム 7月3日～4日 放流操作の状況



2023 年 5 月 16 日

瀬戸石ダムを撤去する会 御中

電源開発株式会社

貴会からの質問書に対する回答について

当社瀬戸石ダム・発電所は、球磨川流域の皆さまの安全・安心を最優先に取り組んでおります。

さて、貴会からの 2023 年 3 月 31 日付け質問書につきまして、以下のとおりご回答申し上げます。

なお、これまでもお伝えしておりますとおり、瀬戸石ダム・発電所に関する情報は、当社ホームページ等を通じて提供しており、それ以外のご質問や写真・動画を含む情報提供の申し出については、当社事業運営上、提供できかねるものがございますのでご理解願います。

記

令和 2 年 7 月豪雨時の瀬戸石ダムの放流操作等については、当社ホームページの 2021 年 2 月 19 日付公表資料に記載のとおり、豪雨当時、ダム地点において過去に経験したことのない大規模かつ急激な流入となりました。これに対して適正な放流操作を実施しており、ダムからの放流量が流入量を上回っていないことを確認しております。

実際のダム操作については、ゲート下端が水面より離れ、流入水がそのままダムを流下する自然流下状態となっております。

弊社としては、流域の安全・安心のため、引続き適切な放流操作ができるようダム操作体制の強化等を図っております。

令和 2 年 7 月豪雨時の下流域への連絡については、当社ホームページの 2020 年 8 月 12 日付公表資料において、通知等の一部に遅れや実施できない点があったことについて公表しております。

その後、被災した下流警報設備について、翌年の出水期前（2021 年 5 月末）までに復旧し、その際、可能な範囲で装置の取付位置を高くする対策を行いました。なお、令和 2 年 7 月豪雨と同規模の出水が発生した場合には、一部の警報設備は浸水するおそれが残っているため、より高い場所にそれらを順次移設することとしております。

この他、荒瀬警報局（旧荒瀬ダム付近）より下流の警報局では、各地点でのダム放流水の到達を見込んで順次アナウンスしますが、流量が急増する場合には、ダム放流水の到達時間が短くなることを考慮して一斉にアナウンスするよう改善を実施しています。

また、瀬戸石ダム放流量については、現在、テレホンサービス、ケーブルテレビの告知放送でも確認でき、2022 年 4 月からは国土交通省ホームページ「川の防災情報」にて、瀬戸石ダムデータ（貯水位・流入量・全放流量・ダム地点時間雨量）をご覧いただけるようにしております。この他、瀬戸石ダム下流側からのライブカメラ映像についても当社ホームページにて配信しています。災害時の住民の皆様の避難等については、行政から提供される情報等をもとに判断すべきものと考えておりますが、当社としてもダム情報を迅速かつ的確に提供できるよう改善を実施しております。

当社は、令和2年7月豪雨後の安全・安心の取り組み等について、当社ホームページでの「お知らせ」の掲載や流域住民の皆さまへのチラシの配布及びケーブル TV の活用により広く情報発信を行うとともに、関係行政等に対しても適宜必要な情報提供を行っており、今後も流域の皆さまのご理解、ご協力を頂きながら進めて参ります。

当社は、今後も流域の皆さまからのご意見等に真摯に耳を傾けて適切な対応に努め、従来から行ってきた農業用水・工業用水への供給等に協力するとともに、再生可能エネルギーとして電力の安定供給に貢献できるよう取り組んで参ります。

以 上